



いくら降圧剤を飲んでも効かない人に朗報

全く新しい血圧の下げ方

「腎デナベーション」の威力

＋受けられる病院38リスト

クスリを飲んでも血圧が下がらない人の「最後の希望」になるか

受ける側にとっては通常のカテーテル治療とそう変わらない

クスリか生活習慣の改善か、あるいはその両方か――限られた選択肢しかなかった高血圧治療に、第三の「奥の手」が現れた。その実力とは。

カテーテルで神経を焼いて下げる

成人男性の3人に1人が悩んでいるとも言われる高血圧。これまで効果的な治療法といえば、運動や減塩といった生活習慣の改善、もしくは血圧のクスリを飲む以外、ほとんど選択肢がなかった。

何種類もクスリを試しながら、朝晩のウォーキングを続けても、数値が一向に下がらない――そんな苦しい経験がある人も少なくないのではないか。

高血圧に悩む人にとって「希望の光」とも言えるまったく新しい治療法が、今年3月から保険適用となった。その名も「腎デナベーション」。すでにこの治療をスタートしている心臓病センター榊原病院の副院長で、治験も含めて10年前から腎デナベーションに取り組んできた廣畑敦氏が解説する。

「欧米ではすでに広く取り入れられている治療法で、降圧剤を飲んでいる人でも、この腎デナベーションを行うと血圧が10㎜Hgほど下がることが知られています。クスリを何種類飲んでも血圧が下がらなかった患者さんに対して、降圧効果が期待できるかもしれません。

また高血圧の患者さんの中には、朝方に血圧が大きく上昇する『モーニングサージ』を起こす人がいる。そういった人に腎デナベーションを行うと、朝方の高血圧を緩和できると言われています。モーニングサージの影響もあって、心筋梗塞や脳卒中は午前中に起きることが多いですが、そういった心血管疾患のリスクも減らせるわけです」

では具体的に、どういった治療法なのか。西条中央病院で腎デナベーションを担当している中村真嵐（みちつぐ）氏が説明する。

「人間は交感神経が活発に活動すると、血圧を上げるホルモンのレニンが多く分泌され、体内にナトリウムを貯えたり血管を収縮させたりして、血圧が上がっていきます。腎デナベーションとは、その大元である交感神経の活動を抑える治療法です。

具体的には脚の付け根からカテーテルを入れて、左右の腎臓につながる腎動脈の周囲を走る交感神経を、超音波や高周波で焼き切ります」

交感神経の興奮を抑えられれば、高血圧以外にもさまざまな疾患のリスクを下げることができるかもしれない。その可能性を指摘するのは、東宝塚さとう病院の滝内伸氏だ。

「交感神経が過剰に興奮してしまうと、高血圧はもちろん、糖尿病や不整脈、慢性腎臓病などあらゆる生活習慣病が次の病気を呼ぶ、『負のドミノ』を引き起こしかねない。腎デナベーションで交感神経の暴走を抑えることで、こういった疾患のリスクも軽減できると期待されています」

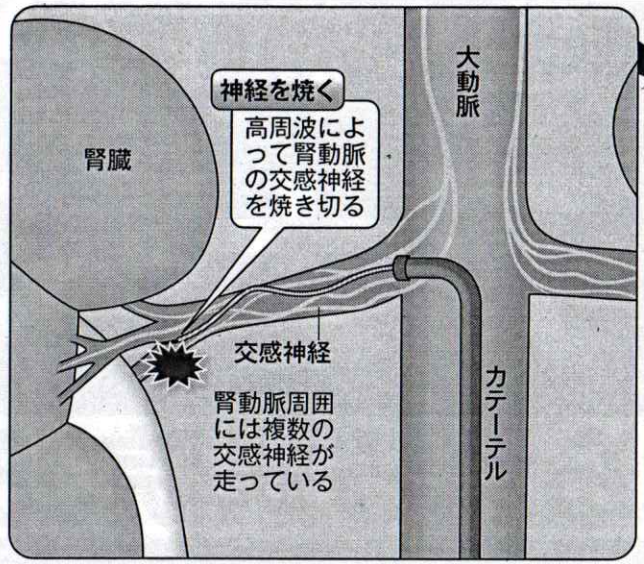
2泊3日の入院で、手術は1時間ほど

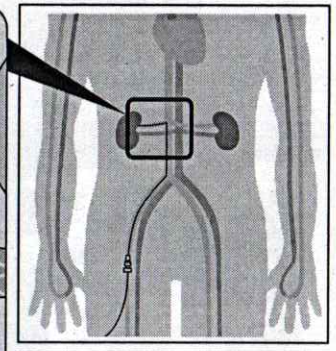
実際に治療を受けるとなったら、どのような手順で進むのか。

現時点で腎デナベーションが保険適用になるのは、「利尿薬を含む3種類以上の異なる降圧剤を最大限まで服用しているにもかかわらず、血圧がコントロールできない『治療抵抗性高血圧』の患者」に限られる。その条件に当てはまるかどうか、事前にじっくりと検査が行われる。

「ほかの病気の影響で血圧が

最先端の高血圧治療「腎デナベーション」大解剖





①脚の付け根からカテーテルを入れて、高周波を出す器具を腎動脈まで伸ばす
②左右の腎動脈にある交感神経を焼き切る。血管の奥のほうにある神経まで焼いておくと、より効果が高い

※取材をもとに編集部が作成

上がる『二次性高血圧』の場合、腎デナベーションを行っても効果はありません。その可能性を除外するために、腎臓の血管のCTを撮ったり副腎に腫瘍がないか調べたりするので、事前の検査に2週間ほどかかります。そこで対象者だとわかれば、ようやく手技を行います。通常のカテーテル治療とそう変わらないので、慣れている医師ならばまず問題ないでしょう。

血圧のクスリと「サヨナラ」できるのか

腎デナベーションが画期的な治療法であることは間違いないが、それゆえに実施されている病院も限られている。すでに治療がスタートしているのは、日本全国38ヵ所の病院のみ（6月1日時点）。日本高血圧学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本循環器学会という高血圧治療に関わる3つの学会が集まった、「日本腎デナベーション協議会」が認めた「実施施設」に限定される。

「実施施設に認定されるには、3学会が認定する専門医が所属していることに加えて、看護師や薬剤師、管理栄養士から成るチームを作らなくてはいけません。さらに手技を担当する医師やチームの薬剤師は、さまざまな講習を受ける必要がある。つまり認定された病院には、専門性が高いスタッフがそろっているというわけです」（前出の中村氏）

治療自体の所要時間は1時間ほどで、静脈から全身麻酔をするので痛みもありません。ただし術後の様子を診たいので、最短でも1泊2日、通常は2～3泊ほど入院してもらいます」（前出の廣畑氏）

ちなみに入院費も含めたトータルの治療費は、およそ100万円。だが保険適用であれば約30万円に抑えられるうえ、所得によっては高額療養費制度を利用できる。

腎デナベーションを受けられる病院はここだ！

今すぐ治療を受けられる病院は左の表にまとめたが、これからさらに増える予定だ。

ただし腎デナベーションを受けたからといって、高血圧と完全に縁を切れるわけではない。基本的には治療後も、血圧のクスリを飲み続けなければならないからだ。

「腎デナベーションの効果は、あくまでも血圧を10～20㎜Hgほど下げること。クスリを3種類飲んで160㎜Hgだった人が腎デナベーションで140㎜Hgに下がったとしても、クスリをやめれば、また160㎜Hgまで上がってしまうかもしれません。あくまでも血圧のクスリが効きにくい高血圧の患者さんだけが受けられる、『奥の手』とも言うべき治療なのです」（前出の滝内氏）

ただし若い人が受けた場合、降圧剤を減らせる可能性も決してゼロではない。

「まだ長期的なデータが出そろっていないので確たることは言えませんが、たとえば40歳の時点ですでに血圧が高く、降圧剤をたくさん飲んでいる患者さんが腎デナベーションを受ければ、血圧のクスリの量、もしくは種類が減る可能性も考えられます。手術を受けずに80歳までたくさんの降圧剤を飲み続ける場合と比較すれば、トータルの医療費を削減する効果も期待できるでしょう」（前出の廣畑氏）

医学の発展は日進月歩だ。この先も研究が進めば、さまざまな新しい治療法が生まれることだろう。

病院名	所在地
鈴鹿中央総合病院	三重県鈴鹿市安塚町山之花1275-53
大津赤十字病院	滋賀県大津市長等1-1-35
京都市立病院	京都府京都市中京区壬生東高田町1-2
大阪けいさつ病院	大阪府大阪市天王寺区烏ヶ辻2-6-40
大阪急性期・総合医療センター	大阪府大阪市住吉区万代東3-1-56
中津病院	大阪府大阪市北区芝田2-10-39
大阪大学医学部附属病院	大阪府吹田市山田丘2-15
枚方公済病院	大阪府枚方市藤阪東町1-2-1
神戸大学医学部附属病院	兵庫県神戸市中央区楠町7-5-2
兵庫県立尼崎総合医療センター	兵庫県尼崎市東難波町2-17-77
兵庫医科大学病院	兵庫県西宮市武庫川町1-1
東宝塚さとう病院	兵庫県宝塚市長尾町2-1
ベリタス病院	兵庫県川西市新田1-2-23
心臓病センター榊原病院	岡山県岡山市北区中井町2-5-1
西条中央病院	愛媛県西条市朔日市804
高知大学医学部附属病院	高知県南国市岡豊町小蓮185-1
福岡山王病院	福岡県福岡市早良区百道浜3-6-45
久留米大学病院	福岡県久留米市旭町67
宮崎市郡医師会病院	宮崎県宮崎市大字有田1173

病院名	所在地
札幌中央病院	北海道札幌市中央区南9条西10-1-50
札幌厚生病院	北海道札幌市中央区北3条東8-5
弘前大学医学部附属病院	青森県弘前市本町53
秋田大学医学部附属病院	秋田県秋田市広面字蓮沼44-2
山形県立中央病院	山形県山形市大字青柳1800
福島県立医科大学附属病院	福島県福島市光が丘1
筑波記念病院	茨城県つくば市要1187-299
千葉大学医学部附属病院	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1
三井記念病院	東京都千代田区神田和泉町1
聖路加国際病院	東京都中央区明石町9-1
慶應義塾大学病院	東京都新宿区信濃町35
帝京大学医学部附属病院	東京都板橋区加賀2-11-1
東京女子医科大学附属足立医療センター	東京都足立区江北4-33-1
新潟県立中央病院	新潟県上越市新南町205
静岡市立静岡病院	静岡県静岡市葵区追手町10-93
名古屋市立大学病院	愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
一宮西病院	愛知県一宮市開明字平1
蒲郡市民病院	愛知県蒲郡市平田町向田1-1
松阪総合病院	三重県松阪市朝日町1区15-6

※日本腎デナベーション協議会の資料をもとに編集部が作成。情報は6月1日時点のもの